

第2期第7回（平成24年第3回）帯広市産業振興会議

（第2グループ）議事録要旨

平成24年8月17日（金）18：00～

帯広市役所10階第3会議室

I. 開会

II. 会長挨拶

III. 協議

1. 会議の進め方について

事務局より、資料に基づき会議の進め方について説明があった。

2. 意見交換

帯広市産業振興ビジョンのうち、「1. 中小企業の経営基盤の強化」、「5. 集客・交流産業の振興」について、別紙「第6回産業振興会議におけるご意見等一覧」に「優先度・目標貢献度」「具体性・実現性」「中小企業者との協働」の3つの観点から評価・集計した上で、提言事業として実施すべき事項について意見交換を行った（評価結果は別紙）。

（1）「1. 中小企業の経営基盤の強化」について

（委員）

実施すべき項目としては、具体性が高く、優先度が高いものが望ましい。

「1-7 地元企業の現状把握」の評価が高い。帯広市でも、過去に調査等を実施したと記憶しているがどうか。

（事務局）

平成17年度に商業実態調査、平成18年度に製造業実態調査を実施した。

（委員）

帯広市の経済は統計で見ると比較的好調だが、実感としては大変厳しい。このギャップは何なのか、経営者が何を問題と感じているかは、依然として分からないままである。中小企業者の実態や考えなどを、全数調査を含めて大がかりにつかむことが必要だ。

（委員）

現状が分からなければ、取組みもきちんとしたものにはならない。

(委員)

中小企業者のニーズを問うような内容になるか。

(委員)

アンケートも大切だが、中小企業者による討議を通じて、何が課題なのかを明らかにしていくべき。

(委員)

地域の景況感などについては、人により受け止め方が異なる。

(委員)

主観的な意見を求めるのか客観的な状況を回答してもらうかなど、質問にもよる。

(委員)

無作為抽出しないと膨大な時間がかかる。業種別に対象を抽出して、現状や課題、十勝の産業について思うことなど、本会議で質問項目を作成してアンケートを実施するのは良い考えだと思う。

(委員)

東京都墨田区は、かつて全数調査を行った。数字に現れることと現れないことの両方を把握する必要がある。少数でも重要な意見もある。

(委員)

回答が目先の要望ばかりにならないよう留意しなければならない。

(委員)

意見の中には税に関する提案もあったが、国税について提言事業で扱うのは困難。

インターンシップや、経営者と若者の直接対話などは興味深い。

(委員)

インターンシップは、やり方次第で可能だと思う。

(委員)

東京の学生が帯広畜産大学の講義を受講して単位を取得できれば、農業系の学科がない大学の学生にとって魅力があると思う。

(委員)

地元就職する人を増やす目的ならば、地元企業を知る観点から5社、10社回ってレポートしたり、企業側から大学を訪問して学生にPRするなどの取組みもあって良い。

(委員)

確かに、道外の学生よりも地元の学生に働きかける方を優先すべきかも知れない。

(委員)

どのような会社なら働いてみたいかなどを尋ねても良いと思う。

(委員)

インターンシップに参加する前に、会社の概要や学生の進路などをやりとりすべき。

(委員)

学生にとってすぐに結果が出なくとも、将来必ず役に立つというような内容を中心に据えることが望ましい。例えば、企業インタビューの実施や経営者の想いを聞くというのは良いと思う。将来、必ず何らかの形で生きてくる。

(委員)

1名が1～2週間インターンシップに来ても、仕事を教えるだけで終わってしまう。職場体験は重要だが、会社を知ってもらうだけなら2週間も必要ない。経営者にインタビューすることで、経営者自身の意識も変わると期待できる。

(事務局)

杉並区のNPOでは、中学生が企業インタビューを行い、冊子にまとめて発刊する事業を実施している。

(委員)

仕事に関する討論会などをイベント的に実施しても良いと思う。

(委員)

学生には、インタビューや調査などを含め、現場を見てもらうべき。

(委員)

農業体験を受け入れている団体もあるが、実際に就農するのは困難。地元の企業を理解してもらうことに焦点を当てるべき。

(委員)

保護者に一日ついて回って、仕事を見てもらうのも良いかも知れない。

(委員)

十勝管内でも、社員と家族、地域住民を巻き込んでフェスティバルを実施している例がある。

(委員)

仕事フェスタのようなイベントも良い。

(委員)

工業団地にはあらゆる企業が集積しているが、情報発信が十分ではない。工業団地のバスツアーなどを開催しても良いかも知れない。

(委員)

オリエンテーリングなども面白いと思う。

(委員)

地元の企業や仕事を理解してもらう観点で取り組むことが重要だと思う。

(委員)

テーマである経営基盤の強化という意味では、商売とは何かということや、外部から見た改善点などを指摘することも重要。「1-16 外部コンサルタントへの投資支援」にあるように、外部の専門家に経営の改善点などを指摘いただく予算枠があれば良いと思う。

「1-15 経営基盤に関する各機関の支援の棲み分けと連携」については、相談した際にたらい回しにならないよう、各機関が受け持つ内容が明らかになっていると良い。

「1-17 商店街活性化手法の抜本的見直し」について、商店街が抱える課題をイベントで根本的に解決することはできない。商店街自体を見直し、現状ベースではなく抜本的に考えることも面白いのではないか。例えば、カナダのウエストエドモントンモールのような思い切ったことを考える場があっても良いと思う。

「1-18 青年・壮年を対象とした実践的教育」は、本会議としては、人材育成の対象として、すぐに就職・起業する層に焦点化した方がよいという意図で記載した。

「1-19 異業種進出への支援（季節的なモノ、繁忙期以外のトライ、地理的条件の活用など）」は、建設業に限定せず、冬場に仕事がない人に季節限定で取り組めることや、例えば地熱を利用した農作物の栽培など、帯広の地理的条件を活用した事業が何かできればと思っている。

（委員）

コンサルを活用したいと思っている中小企業者はどれくらいいるかと思われるか。

（委員）

予算枠があれば自分の会社も活用したい。税理士や公認会計士などは日常的にお願いしているが、それ以外の外部の目から、経営についてここが不十分だといった具体的なアドバイスがもらえればありがたい。

（委員）

税務アドバイスについては、各社とも既の実施しているのではないか。

（委員）

当方からお願いする部分についてアドバイスをいただいているが、的外れになっていないかどうか不安に感じることもある。

（委員）

コンサル経費については、毎月1回、1年間で1,000万円程度必要とも聞く。

（委員）

自分の会社もコンサルにアドバイスをもらっているが、人事、組織、マーケティング、業界最新情報などの簡単なものなら、専属・月1回で年間200万円程度。もっと簡易なものなら、首都圏での勉強会などもある。

（事務局）

中小企業基盤整備機構でコンサル派遣事業を実施しており、謝金の一部等を負担することにより、経営計画等を事前に送付して改善点等のアドバイスを受けることができる。

（委員）

中小企業者の中には、外部コンサルのアドバイスを受けるまで踏み込めないところが数多くある。予算枠があれば、応募も少なくないと思う。

（委員）

外部の専門家を招聘した勉強会が開催されているが、情報が分散している。情報を整理して1つのホームページで発信するワンストップサービスがあればありがたい。

（2）「5. 集客・交流産業の振興」について

（委員）

地元住民が、帯広・十勝のどこが良いのかを伝えられない状況にある。良い場所はたくさんあるが、さらに良くしていくべき場所を明らかにして、そこにお金をかけていくことが必要。地元住民の意識を高めながら、観光地選びを実施してはどうか。

（委員）

民間が実施するなら良いが、行政が観光地を順位付けするのは難しいのではないか。

(事務局)

民間主導で実施するなら良いが、行政が個店の名前を出して評価するのは難しく、漏れがあっても問題。

(委員)

行政ではなく、市民が点数をつけるならよいのではないか。

(委員)

この店の商品はこういう特徴があるという紹介や、豚丼、スイーツ、モール温泉などを種類として紹介するのは良いと思うが、順位付けは難しいだろう。

(委員)

青空、パッチワークの景色などの形なら紹介できるのではないか。十勝のイメージが打ち出せれば、民間が独自に順位付けしてくれるかも知れない。

(委員)

ぜひ訪れてほしい3つの場所とか。固有名詞を出さないと意味がない。

(委員)

「田園風景」といっても、どこなのか分からなければ訪れることもできない。

(委員)

美瑛の丘のように、象徴的なものが作られていない。

(委員)

帯広市が他町村の風景を紹介することは可能なのかなど、具体的に考えるほど難しい面が出てくると思う。

(委員)

市民に選んでもらって、人気のあるスポットを紹介するのはどうか。

(委員)

何故行政が一企業を宣伝するのかということになるので、個人・企業の所有は避けた方が良い。

(委員)

市民が選んだということではダメか。

(委員)

観光だから市内にこだわる必要はないと思う。中小企業振興基本条例にも「十勝」と明記してある。多くの住民が意識するようになることが大切。

(委員)

順位付けしなければ良いのでは。

(委員)

少数意見も含めて、全て紹介すれば良い。

(事務局)

全件紹介が観光客のニーズと合致するかどうかは分からない。

(委員)

農村風景の写真を募集している事例があるが、おすすめの写真を募集して順位付けしてはどうか。

(委員)

市民がおすすめるベストスポットならどうか。

(委員)

十勝管内の観光スポットを一覧できるホームページはあるか。

(事務局)

十勝観光連盟のホームページで一覧できる。

(委員)

やや情報が多いように感じる。

(委員)

抜きこんだ観光スポットがないということかも知れない。

(委員)

そういうスポットを作ろうという意識をもたなければならないと思う。

(委員)

複数の観光スポットを組み合わせることで魅力を高めていくことも重要。

IV. その他

連絡事項等は特になかった。

V. 閉会